

団体名	NPO法人ターサ・エデュケーション	活動タイトル	フリースクール運営基盤整備	
<p align="center"><b>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</b></p>			<p align="center"><b>■ 活動風景</b></p>	
<p><b>●地域の望ましい社会状況（ビジョン）</b></p>	<p>不登校という社会課題を解決するために私たちがめざす社会の姿は、子どもたちが学ぶ場所を自由に選択できる社会です。現在子どもたちは学齢期になると「学校」という唯一無二の教育機関に通うこととなります。しかしながら学校にうまく適応できず「不登校」と呼ばれる存在になり苦しむ子どもたちが少なからず存在します。彼らが苦しむ理由は自分だけが周りと違うという感覚から生まれる「劣等感」です。自分だけが学校に行けないという感覚から「どうせ自分なんて」と自身を卑下させ、社会から孤立し、意欲的に学習等に取り組むことができなくなります。</p>		<p>研修会の様子</p>	 <p>第2回の研修会としてスクールカウンセラーである臨床心理士飯島先生を講師として、ADHDなどの障害を抱える子どもたちの関わり方を学びました。</p>
<p><b>●団体の社会的役割（ミッション）</b></p>	<p>不登校という社会課題を解決するために必要な私たちの役割は、まず私たちが学校に行かなくとも人と繋がることができ、学ぶことができ、自立できる。そんな場所を作り、健全に運営すること。そしてその活動を地域社会に発信し、課題感の浸透そして支援の輪を構築することと考えています。</p>			
<p><b>●団体の活動基盤</b></p>	<p>私たちが活動を継続・発展させていくために必要なことは人材の確保として活動資金です。人材と活動資金について共通することは、いかに社会的インパクトを出していくかという点です。現在の財政基盤では優秀な人材を獲得することは難しい状況です。しかしながら活動を発展させていく中で、活動を知り活動の意義に共感していただく方の中には、この状況の中でも仲間として一緒に働いてくれる方もいます。そして活動資金が事業収入はもちろん、寄付金収入等で十分に得られれば、条件面等で一緒に働くことが叶わなかった方々も仲間にすることもできるはずで、人材や活動資金を獲得していく中でも社会的インパクトを常に意識しながら活動することが重要であると考えています。</p>			
<p align="center"><b>■ 活動報告</b></p>			<p align="center"><b>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</b></p>	
<p>助成3年目は、フリースクールの基盤整備を行うために、以下のとおり、①ボランティア向けの研修会②受益者管理システムの構築③WEBサイトの改修を行いました。</p> <p>①ボランティア向けの研修会は3回実施し、のべ40名の方が発達障害児への関わり方やソーシャルスキルトレーニング手法について学びました。参加したボランティアスタッフの満足度も高く、その結果子ども達の保護者の満足度も向上する結果になりました。</p> <p>②KINTONを活用し、受益者管理システムを構築しました。その日の支援終了後にボランティアの方に子どもの様子やgoogleフォームを活用し入力していただき、400近い支援記録が蓄積されました。この情報を基に学校や保護者への通信や報告書を毎月各児童に発行し、報告の質が向上したと考えています。</p> <p>③WEBサイトの改修については難航し、納品が予定よりも大幅に遅れました。そのため、WEBサイト経由の寄付者を獲得することはできませんでしたが、今後完成したサイトを活用し寄付者を増加させたいと考えています。</p>			<p>今年度新型コロナウイルスにより、フリースクールの運営もさまざまな対応に追われるものの、退会や休会する子どもも例年より多く、収益ベースでも目標には届きませんでした。しかし不登校は毎年増加傾向にあり、学校外の場所の必要性はますます大きくなっていることは間違いありません。今回いただいた助成金を活用し、子どもの実情に合ったボランティアを7名育成することができました。また、受益者管理システムにより子どもたちの情報を蓄積し、子どもの変化を確認することができ、支援成果を学校や保護者に報告することが可能になりました。確実にフリースクールでできる支援の質の向上につながったと考えています。</p> <p>WEBサイトについては大幅に納品が遅れてしまったため、今後サイト充実させファンドレイジングや課題理解を広げるためのツールとして活用していきます。</p>	
<p align="center"><b>■ 事業を通じて得られたノウハウ</b></p>			<p align="center"><b>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</b></p>	
<p>ボランティア向け研修会ではボランティアの質向上はもちろんのこと、新規入会希望者の保護者を安心させる材料になっていることがわかりました。小学校低学年の不登校児には発達障がい傾向を持つ子どもが少なく、保護者も安心して利用を検討できる状態になりました。受益者管理システム構築によって支援内容の詳細な報告書を作成することにより、今まで「フリースクールでは何をしているかわからない」と保護者や学校から言われることがほとんどなくなりました。</p>			<p>フリースクールなど学び場の選択肢が社会に存在している状態が不登校という課題を選択に変えることができると私たちは考えています。そのため、不登校の受け皿としての機能では不十分であり、制度に左右されない価値が高い教育支援を実現していかなければなりません。が、フリースクール運営は財政的に厳しく、人材も限られていることから、運営継続する体制を整えることが課題であるため、フリースクール運営で培ったノウハウを行政に働きかけ、日本でいくつかの市町村で実現されている公設民営のフリースクールを作ること1つの手段であると考えています。</p> <p>私たちが成功モデルとなることができれば、今後さらにフリースクールが県内各地に広がりが期待できるのではないかと考えています。本助成事業を3年間継続して実施し、群馬県内では最も認知され、最も多くの子どもが利用する場所になりましたので、今後も、新たな挑戦を続けたいと思います。</p>	
<p align="center"><b>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</b></p>			<p align="center"><b>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</b></p>	
<p>この1年間の活動を通じて</p>			<p>フリースクールの信頼度アップ</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p>ボランティアスタッフの子どもの支援へのモチベーションが向上した。人材育成の成果としては、スタッフ・ボランティア一部の方の意識が変わったことがあげられます。想いを持ってボランティアとして関わる人は、子どもに変化してほしいと思う方が少なくありません。しかし、変化しない子どもを目の当たりにして、どうすればいいかわらぬ方やストレスを感じている方もいますが、今回実施したさまざまな研修によって、子どもの状態（発達障がいなど）によっては、すぐ変化することが難しいことを知ることができ、気持ちすがす楽になったとの評価をいただき、保護者や学校がフリースクールへ信頼につながりました。</p>	